

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000734		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	明石グループホームラガール		
所在地	兵庫県明石市林崎町3-553-7		
自己評価作成日	令和7年 3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和7年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に自分らしい生活を送って頂くために日々のレクリエーションや外出行事に力を入れています。地位の交流では月に1度の書道教室やサロンを隣の小規模多機能と合同で開催し地域の方たちとの連携に力を入れています

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬戸内海・淡路島・明石海峡大橋が眺望できる環境にあり、特別養護老人ホーム・小規模多機能型介護事業所を併設する複合型施設である。施設合同の会議・研修会・訓練実施や、施設兼任の看護師の配置があり、医療連携や看取り介護の連携体制が整備されている。海岸や近隣への散歩、テラスや渡り廊下での外気浴や歩行訓練、庭での園芸活動、個別の買い物やドライブ等、戸外で過ごす多様な機会を設けている。ふれあいサロン・夏祭り・ラジオ体操による地域交流・清掃活動参加等の地域貢献、ボランティアによる書道教室や自治会主催のバザーへの参加等、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう取り組んでいる。施設厨房でのイベント食・リクエストメニュー(駅弁フェア)や事業所での昼食レクリエーション・おやつレクリエーションへの調理参加等、食事を楽しめる機会づくりを継続している。毎月のラガール新聞・近況報告書・面会等により、家族と連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心、信頼、貢献」に基づき利用者様の状況を会議で確認し安心して生活していただける用にケアをしている。	法人の理念・基本方針を共有し、基本方針の中に地域密着型サービスの意義を明文化し、事業所玄関への掲示により共有している。毎週昼礼時に、施設長が理念を説明して理念の理解を深めている。グループホーム会議・サービス担当者会議時に、利用者支援・計画内容等について検討する時は、理念・基本方針に立ち戻り、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや地域のボランティアの方の書道教室参加など交流の機会を設けてます	施設として自治会に加入し、回覧板等により地域情報や動向を把握している。自治会主催のバザー・ラジオ体操に利用者も参加し、地域と交流している。書道教室・フラダンス等ボランティアの来訪があり、利用者も参加しながら地域と交流する機会づくりに取り組んでいる。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と、夏祭り・ふれあいサロンを共同開催し、事業所・利用者が地域との交流を継続している。事業所として月1回、利用者とともに地域のクリーン作戦に参加し、施設としてラジオ体操、ふれあいサロン開催協力・トライやるウィーク、近隣高校の実習生受け入れ等地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅からGH、GHから特養とその方にあつたサービスを受けれるように部署間での連絡をとっている		

明石グループホームラガール

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回小規模と開催し活動報告や普段の様子を写真などで説明している	利用者・家族・地域代表(自治会長・民生委員・ボランティア)・知見者(他事業所管理者)・事業所職員を構成委員とし、併設の小規模多機能事業所と合同で2か月に1回開催している。グループホーム・小規模多機能事業所から、利用者・家族が出席している。令和6年度はすべて集合開催している。会議では、報告資料をもとに利用者状況・事業所の活動状況・事業所の活動予定を報告し、参加者と意見・情報交換を行っている。スライドを用いて、わかりやすく説明できるよう工夫している。参加者との意見・情報交換も議事録に記録し、報告資料と共にファイルし、事業所玄関のカウンター上に設置し公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネが市町村担当者とサービスの話し合いをし連携を行っている	市の集団指導にオンライン参加し、相談・質問・報告等があれば、管理者・介護支援専門員等が適宜、電話・メール・訪問等で市の担当窓口にお問い合わせ、適正な運営に反映している。事故報告は、メールで報告後、訪問して説明している。明石市グループホーム小規模合同部会を通じて市と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会設置し、離接される入居者様に対し玄関の施錠は行っているがフロアは自由に行き来でき散歩やレクリエーションに参加していただき、気分転換を図るようにしています	「身体拘束適正化・虐待防止のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。2ヶ月に1回事業所独自で「身体拘束委員会」を実施し、適正化に向けた検討・行動制限につながりそうな事例検討等を行っている。議事録を「身体拘束委員会ファイル」に綴じ閲覧により周知を図っている。研修については、施設内研修(年2回・身体拘束の排除のための取り組みに関する研修)に管理者が参加し、グループホーム内研修(年2回)で、管理者が講義形式により伝達研修を実施している。受講者は、「研修実施記録」を提出し、欠席者にも資料配布と「研修実施記録」提出により周知を図っている。玄関・ユニット扉は施錠しているが、外出希望があれば職員が同行し、閉塞感を感じないよう取り組んでいる。	委員会議事録に事例の有無についても記録し、閲覧印等により職員の周知を明確にする工夫が望まれる。

明石グループホームラガール

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員が学ぶ機会を持ってもらえるように年2回の研修を行い事業所内での虐待が起きないように、また疑われないように気を付けている	「身体拘束適正化・虐待防止のための指針」を整備している。虐待防止についても事業所独自の委員会を設置し、年度内3月の開催を予定している。上記と同様の方法で、「高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関する研修」を実施し、意識向上を図っている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者は個別に助言し、グループホーム会議で注意喚起している。施設長は年1回、管理者は年2回の定期的面談、随時面談等、相談しやすい職場環境づくりに努め、ストレスチェックの実施・法人相談窓口の設置等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	今後、定期的に委員会を開催し、虐待事例(不適切ケア事例)の現状確認と、不適切ケアに繋がりそうな事例についての検討を行い、委員会内容について、上記方法等により周知を明確にすることが望まれる。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が学ぶ機会を持ってもらえるように年2回の研修を行い各制度について知識を持ってもらえるように配慮している	令和7年3月に、グループホーム会議の中で「後見人の意味」等資料を基に、講義形式で研修を実施している。弁護士・司法書士等専門職を後見人とする成年後見制度の利用事例があり、面会対応・金銭管理資料の提供・個別のお便りとラガール新聞郵送による利用者状況の報告等、制度利用のための支援を行っている。今後、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が総合セター等関係機関と連携して支援する体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や利用者様には安心して過ごしてもらえるように意見交換や十分な説明ができる場を設けるようにしている	入居相談・入居希望があれば見学対応し、パンフレットを基に、一日の流れ・利用料金等を説明している。契約時には管理者が、重要事項説明書・契約書・指針・同意書等を基に説明し、同意を得ている。特にリスク対応・入所中の生活事項等について、「入所に際してご理解いただきたい事項」を基に説明し、文書で同意を得ている。契約内容改定時は変更内容を説明した文書を作成・説明し、文書で同意を得ている。	

明石グループホームラガール

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様からの意見があった際には管理者や担当者から他の職員に話を今後の業務に反映させよりよい業務につなげるようにしている	家族の面会・来訪・電話連絡時等に近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者担当職員が、毎月個別のお便り・「明石グループホームラガール新聞」を郵送し、利用者個々の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう情報提供している。把握した家族の意見や要望は「連絡ノート」「グループホーム会議」で共有し、計画や個別支援に反映している。利用者の要望は日々の会話の中の中で把握に努め、外出・食事希望等「連絡ノート」で共有し個別に対応している。運営推進会議への参加を通じて、家族や利用者が事業所や外部者に意見・要望等を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で職員同士の意見交換や要望を聞き業務に反映でき量にしている	月1回、ユニット合同の「グループホーム会議」を実施し、検討が必要な利用者ケア・業務についての検討を行い、利用者支援・業務改善等に反映できるように取り組んでいる。議事録コピーの配布と、「連絡ノート」にも挟み、全職員の会議内容の周知をサインで確認している。日々の検討は出勤職員で検討し、管理者が決定事項を「連絡ノート」に記録し共有している。管理者は定期面談・随時面談を実施し、個別に意見等を聴取する機会を設けている。施設合同の感染対策委員会・安全衛生委員会等各種委員会に事業所から委員が参加し、職員の意見を反映し共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の際に職員と面談を行い、意見を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ係を作り職員一人一人にあった配置をし個々の能力を生かせるようにしている		

明石グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人による研修に参加したり、部会に参加した時は同業者との意見交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を記録し職員で共有し、できるだけ実現できるよう努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1度、グループホーム新聞を作成し家族様に送付し面会時には近況を伝えるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問歯科、リハビリ指導等を取り入れ利用者様の状態を把握すように務めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできる範囲で利用者様と一緒にいき、困った事などは相談し人生の先輩として接するようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症流行時以外の面会は利用者様の居室でして頂き落ち着いた雰囲気的交流が持てるように支援しその際に利用者様の昔の趣味や好みをお聞きしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や自宅へ帰りたいと希望があった際は可能な限り実行できるようにし家族様や友人との交流ができるようにしている	家族との面会、キーパーソンの了承があれば友人・知人と、基本的には居室で、状況に応じてエレベーターホール前でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。また、喫茶店・商店街での買い物等馴染みの場所へ出かけられるように個別に支援している。小規模多機能居宅介護事業所との行事時(ふれあいサロン・書道教室等)の交流を通じて馴染みの関係継続を支援している。家族との外出・外泊・外食を再開し、美容院等馴染みの場所に出かけられるよう支援している。電話の取次ぎ・携帯電話使用・年賀状等での馴染みの人との関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事を一緒にして頂き、利用者様が孤立しないようにしている。季節の行事も利用者様、同士の交流になり昔話をされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に入所しても連絡を取り状態の確認を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話で得た情報を生かし把握し職員同士で拒有するようになっている。把握が難しい人は表情などで確認し気づいた事などを共有している。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、家族記入の「興味・関心チェックシート」や、事業所が聞き取って作成した「暮らしの情報シート」を活用し、趣味・仕事・嗜好・好きなこと・嫌いなこと等を把握している。入居後は、利用者との日々の会話で把握した内容を、「連絡ノート」で共有している。把握・共有した情報は、日々の支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応、家族の情報等を基に把握に努めている。	入居後に把握できた情報は「暮らしの情報シート」の「私の願いや支援してほしい」欄に時系列で追記して情報を蓄積し、介護計画や個別支援に活用することが望まれる。

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族様に聞いた情報から生活歴の確認をしている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況を把握し記録を残し職員同士で共有できるようにしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や利用者様の意向を聞き何か問題が生じた時には看護や往診医からの意見を反映し介護計画に生かすようにしている。	入居前面談で作成した「暮らしの情報シート」・家族記入の「興味、関心チェックシート」の情報を基に、サービス担当者会議を開催し、初回の「介護サービス計画書」を作成している。個人ファイルをフロアに設置して「介護計画」の共有を図り、日々の実施状況をシステム内「介護記録」「温度板」・各種チェック表に記録している。毎月のグループホーム会議で、利用者個々の状況やケアについて情報共有や意見交換を行っている。毎月「モニタリング表」で短期目標に沿ってモニタリング・評価を実施し、定期的に6ヶ月毎に計画を見直している。見直し時には、6ヶ月目の「モニタリング表」でのモニタリング・評価、「アセスメントシート」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。サービス担当者会議（家族・管理者・看護師等が参加）は、家族参加が可能な日に開催し、利用者・家族等の意向を「サービス担当者会議要点」に記録している。往診医等関係者の意見は、基本的には看護師を通じて把握し、往診時等に直接把握した場合も「サービス担当者会議要点」の検討内容欄に記録している。	日々の実施状況は、職員が計画内容を意識して記録しているが、介護計画に基づいた実施が明確になる記録が望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し利用者様の状態を記録に残し職員同士が情報交換をし小さな変化でも気づけば報告し必要なら計画の見直し変更をしている		

明石グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でのニーズにはできる限り答えるよう他の部署と連携し答えられるようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の能力を生かし維持してもらえよう安全対策を徹底し、その人らしい生活ができるようにしている。		
30 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診医による診察を行い希望者には訪問歯科にも来てもらっている。	現在は利用者全員が協力医療機関のかかりつけ医を希望しており、2週間に1回内科医の訪問診療、希望に応じて月1回歯科の訪問診療を受けられる体制がある。他科受診については外部受診とし、基本的には家族が同行し、かかりつけ医からの紹介状や事業所より口頭で情報提供を行っている。往診時には施設兼任看護師が立ち会い、訪問診療時の情報提供や受診結果は看護師の「看護ノート」に記録し共有している。通院・訪問診療の記録は、システム内の「介護記録」に記録し、歯科については「訪問診療歯科診療情報提供書」で共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態を確認し、看護や往診医と情報共有し適切な対応ができるようにしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が早期退院が実現できるようにケアマネや病院、家族様との話を行い退院後も混乱されないようにスタッフ間での意見交換を実施している	入院時は看護師が作成する「看護介護情報提供書(サマリー)」と主治医からの「診療情報提供書」で情報提供している。入院中は、管理者・介護支援専門員が地域医療連携室や家族と電話により情報交換し、連携を図りながら早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスができれば主として介護支援専門員が参加し、現状把握・退院後の支援方法等の検討を行っている。退院時には「看護サマリー」「栄養計画書」「リハビリテーション実施計画書」で情報提供を受け、事業所カンファレンスを実施し、退院後の状況に応じて介護計画の見直しを行っている。入院中に把握した情報はシステム内の「介護記録」で共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや今後の支援内容などを家族様と話し合い状態に安心があった場合は連絡を取り可能な限り支援を行っている。	重度化・看取り対応に関する事業所の方針を、「グループホームにおける重度化対応・看取りに関する指針」に沿って、契約時に説明し文書で同意を得て、「介護・看護についての意思」で意向確認を行っている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に状況の説明を行い、主治医・家族・事業所で状況を共有し、再度家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば「看取りについての同意書」で同意を得ている。サービス担当者会議を開催し、介護サービス計画書を看取り介護の計画書に変更し、家族・主治医・管理者・介護支援専門員・施設兼任看護師・介護職員が連携し、チームで支援に取り組んでいる。4月に「ターミナルケアに関する研修」「精神的ケアに関する研修」を施設合同で実施し、参加した管理者が事業所内研修で伝達している。看取り事例があれば、看護師による講義形式で「看取り」の研修を事業所で実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の手順表を確認できるようにし行動できるようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防訓練を行いそのうち1回は消防署立会いのもと行っている。その際消防からの指摘を纏め各部署に配布している。</p>	<p>令和6年度は9月・12月に併設の小規模多機能事業所と合同で、「行動表」の手順に沿って、夜間想定避難・消火訓練を実施している。歩行可能な利用者も参加し、12月は消防署員の立ち合いのもと、消火器訓練も行っている。訓練後に振り返りを行い、「消防訓練実施記録」に反省・感想・対応策や消防署からの助言を記録し、グループホーム会議での伝達と「消防訓練報告書」ファイルの閲覧により、全職員に訓練内容の共有を図っている。運営推進会議を通じ自治会と連携し、施設として市と福祉避難所協定を結ぶ等、地域との連携体制を築いている。「明石グループホームBCPシート」を作成し、令和7年1月に「緊急時の対応(非常災害を含む)」に関する研修・訓練を実施している。備蓄は、BCPシートの備蓄リストに沿って併設の小規模多機能事業所の2階倉庫に、事業所毎に区分して共同備蓄し、栄養課の管理栄養士が管理している。</p>	<p>参加できなかった職員にも、行動表・実施記録閲覧印等により、実施状況・実施後の評価・改善点・専門家の助言等の共有を明確にすることが望まれる。昼間想定訓練の実施を検討してはどうか。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇のマナーの資料を用紙し章句員に周知してもらっている。日々の言葉使いにも注意している。</p>	<p>「接遇」「認知症ケア」「倫理及び法令遵守」「プライバシー保護」等の研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について周知・意識向上を図っている。2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、人権尊重や行動制限の未然防止に取り組んでいる。排泄介助・入浴時はドアの開閉やプライベートカーテンを使用する等プライバシーへの配慮を徹底するよう周知を図っている。気になる言葉かけや対応等があれば、管理者より個別に助言したり、グループホーム会議で注意喚起し、意識向上に努めている。写真・映像等の使用について、契約時に「個人情報使用同意書」に沿って口頭で説明し了解を得ているが、今後、同意書に文書で追記し同意を得る予定である。</p>	

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい方の表情も確認し利用者様の意見を聞きながら判断している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが可能な限り個人に合わすよう努め利用者様が自分らしい生活を送れるように務めている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えを行ったり希望時に理容室にお連れするなど支援しています		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食レクで一緒に食事を作ったり毎日のお米炊きや盛り付けなど利用者様と一緒にやっている。	施設内の厨房で調理した食事を提供し、ユニット内で利用者も一緒に米を洗い、炊飯・盛り付けを行っている。利用者個々の状況・病態に応じて、厨房でミキサー食・みじん食やアレルギー食に、事業所で一口大カット・きざみ食等に対応している。厨房では季節感や行事食・イベント食を採り入れ、年1回施設栄養課による食事アンケートから利用者の嗜好・希望を把握し、リクエストメニュー・駅弁フェア(月1回)等に反映している。可能な利用者が、日常的に食器洗い・トレ拭き等に参加できるよう支援している。昼食レクリエーションやおやつレクリエーションの日を月1回程度設け、利用者もおにぎり・おはぎ・焼きそば作り等の調理に参加できるよう支援し、誕生日には各ユニットでデコレーションケーキでお祝いする等、食事を楽しめる多様な機会づくりに取り組んでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を記録に残し水分量の低下等がある場合は補助食等を提供し、月に1回は管理栄養士の指導を行ってもらっている。		

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔替えの声掛けを行い自身でできる方は自身でして頂き難しい方は介助している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をチェックしその人にあつた時間に声掛けを行い、難しい方には職員が付き添い個々の利用者に応じた排泄介助を行っている。	各居室にトイレが設置され、基本的には居室のトイレを使用し、状況に応じて共用トイレを使用している。「排泄チェック表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、日中は個別に声かけや誘導を行い、できる限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はトイレ誘導・ポータブルトイレの使用・排泄用品交換等に対応している。介助方法や排泄用品等について検討事項があれば、グループホーム会議で検討し、議事録で共有し、現状に適した支援につなげている。日々の提案や意見があれば、管理者が職員の意見を集約し、「連絡ノート」で共有し、迅速に対応している。居室トイレはプライバシーに配慮された環境であり、ドアの開閉や誘導時の声かけ等についても周知を図っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを食べて頂きできる範囲で体操をして頂き自然排便をの為の支援をしている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴予定日はあるが、拒否や体調不良場合は変更など行い職員が支援し安全に入浴できるように支援している	基本的には週2回「入浴予定表」に沿って入浴ができるよう支援し、利用者の体調・希望・気分に応じて日時を調整する等、柔軟に対応している。一般浴槽での個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースでゆっくり入浴ができるよう支援している。浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴・足浴に対応し、状況に応じて併設施設の機械浴を使用できる設備がある。同性希望の場合は同性介助とし、入浴拒否がある場合は声かけやタイミングを工夫する等、個別に配慮している。「入浴実施表」とシステムの「温度板」で入浴状況を把握し、週2回の入浴機会の確保に努めている。浴室には外の景色が見える窓があり、菖蒲湯・ゆず湯で季節感を採り入れる等、入浴がより楽しめるよう支援している。	

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて臥床時間を設けたり、夜は利用者様に合わせ居室に戻ってもらったり空調調整を行っている		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の日付や名前を確認し職員が手渡し服薬支援をしている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり編み物をして頂いたり自分の時間を大切に過ごしてもらっている		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	季節を感じて頂けるように季節の行事や外出行事を計画し参加していただいている。	希望、天候に応じて近隣や海岸への散歩・買い物等に出かけられるよう支援している。今年度、リビング前に外用スロープを設置し、戸外に出入りしやすい安全な環境を整備し、利用者が日常的に洗濯物干しや洗濯物取り込みを行い、戸外で気分転換できるよう配慮している。コナツホール前のウッドデッキや渡り廊下での外気浴、敷地の花壇の水やり、菜園の野菜収穫等、戸外で過ごす機会づくりに努めている。近隣神社への初詣や、観梅・天満大池（稲美町）などドライブ外出行事も実施し、地域の自治会バザーにも参加している。また家族と協力しながら、家族との外出・外食・外泊できるよう支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家族様から預かっているので外出行事等で好きなものを購入してもらっている		

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を持たれている方は自由に家族様と電話をされ希望があればできる限り意向にそっている</p>	/	
52	(23)		<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用室内には利用者様の製作した作品を展示し掃除や換気は毎日行い、快適に過ごして頂けるように室温調整を行っている</p>	<p>リビングは大きな窓から瀬戸内海が眺望でき、明るく開放的な空間である。空調による温湿度管理や換気・消毒・清掃を徹底し、快適で衛生的な環境を整備している。利用者と共に制作した季節の作品や書道・行事写真・ラガール新聞を掲示し、菜園活動に参加する等、利用者が日常生活の中で季節感が感じられるよう工夫している。テレビ・テーブルを設置し、利用者の関係性を考慮して食席を配置し、思い思いにゆったり過ごせるよう環境を工夫している。可能な利用者には、調理・洗濯物干し・テーブル拭き・外回りの掃除等の家事参加ができるよう支援し、生活感を取り入れている。日課として、午前は食前の口腔体操や集団での脳トレ、午後は個別の希望により、音楽・トランプ・ラジオ体操等に参加し、日常生活の中で楽しみや役割りを感じながら心身の機能低下予防に努めている。渡り廊下で小規模多機能事業所の2階デッキと連結されており、ココナッツホール・ウッドデッキ・渡り廊下等を共用空間として活用し、外気浴・家事活動、月1回書道教室への参加等に取り組んでいる。</p>	
53			<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用室内で一人になれる場所が少ないため居室で過ごして頂けるように配慮したり、利用者様利用者様同士の関係に配慮している。</p>	/	

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様が利用していた物を持参していただき家具や小物等も持ち込まれています。写真も身近に飾り安心して過ごして頂けるように配慮する</p>	<p>居室にはトイレ・洗面台・クローゼット・ベッド等が設置されている。テレビ・鏡台・椅子・筆筒・時計等使い慣れたものが持ち込まれ、家族写真・カレンダーが飾られ、居心地良く過ごせる環境づくりを行っている。編み物・本・パソコン等利用者の趣味のものも持ち込まれ、楽しみながらその人らしい生活が継続できるよう支援している。表札に手作りの作品を掲示し、状況に応じて大きな表札を掲示し、部屋間違いの防止に努めている。利用者担当職員を配置し、家族と連携を図りながら、衣替えや環境整備を行っている。</p>	
55			<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置やバリアフリー化、個々の状態に合わせ職員が付きそい転倒防止に努めている。</p>	/	